

茨城大学 農学部 同窓会報



同窓会長あいさつ

茨城大学農学部同窓会

会長 大舘 徹

令和6年5月の役員総会におきまして、中村前会長を引き継ぎ、会長に選出されました。多くの先輩方がいるなか、身の引き締まる思いです。みなさま方のご理解を頂きながら、責任を果たしてまいりたいと存じます。

さて、私は昭和58年春に卒業しました。在校時の校舎、研究棟は、旧海軍施設を使っており、電顕室は四方を厚い鉄板で囲まれた部屋という状況で、趣あるもくすんだ色あいのキャンパスでした。現在の農学部はまったく異なる様相であり、慣れ親しんだ者には一抹の寂しさも感じますが、意欲ある若者が集い、学ぶためには相応しい場となった印象であり誇らしく思います。

外観とともに、学科構成も様変わりしております。私は農学科一育種学研究室に在籍しておりました。現在の組織では、地域総合農学科―農業科学コース―農業生産科学―植物育種研究室となるのでしょうか。このような組織改編は、農学部がスピードを増す社会の変革に対応した教育・研究体制の整備・充実に取り組んだ証であると認識しており、卒業生として感謝申し上げます。

さて、イバダイ・ビジョン2023レポートを拝見すると、教育・研究において優れた成果をあげられていることが読

み取れます。一方で、国からの運営交付金は20年間で約10億円減額され、2023年には56億円余となっていることが示されており、大学運営のかじ取りが難しくなっていることを実感させられます。国や地域の理解を得ながら資金や人材、協力を確保していくことが重要となっているようです。

このような中、茨城大学では今年度、応援団との位置づけの校友会(仮称)を立ち上げようとしています。茨大と繋がりのある方や応援したい方(自治体・企業・団体を含む)に入会いただけるコミュニティといった位置づけで、茨大の近況や学生のサークル活動、各同窓会の情報を発信することを目的としており、地域に根差した大学の姿を地域にお示し、理解を頂戴する良いツールになるものと期待しております。農学部同窓会としても協力してまいりたいと存じます。

なお農学部同窓会長は、今年度から2年間で任期として各学部同窓会により組織される連合会の会長を務めており、大学の経営協議会や基金運営委員会に参画しておりますので、得られた情報を農学部同窓会の運営に適宜反映できればと考えております。

最後になりますが、在校生のみなさまには素晴らしい先生方、過ごしやすいキャンパスといった恵まれた環境の中で勉学に励み学生生活を謳歌されること、卒業生のみなさまには健康に留意され豊かな人生を過ごされることを祈念するとともに、会長として規約に定める「会員相互の啓発、親睦、母校の発展への寄与」の実現に努力してまいりますので、会員各位の皆様方のご理解・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。